

Quality is more than a word

ESPEC



第 **61** 期

中間株主通信

平成25年4月1日 から平成25年9月30日まで





株主のみなさまへ

みなさまには平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

第61期上半期(平成25年4月1日～平成25年9月30日)における業績ならびに
取り組みにつきましてご報告申し上げます。

いしだ まさあき
代表取締役社長 石田 雅昭

当第2四半期累計期間の業績

国内では前年並みとなるも海外が微減 売上高は若干減少

当期間の日本経済は、回復基調が継続しましたが、中国経済の成長鈍化の影響などにより、景気の回復力は脆弱なものとなりました。

当社の主要顧客では、自動車関連メーカーでは積極的な投資が継続しましたが、その他のメーカーでは投資に慎重な姿勢が根強く、本格的な投資回復は見られませんでした。

こうした中、国内では、好調な自動車市場において、カスタム製品の販売拡大に取り組むとともに、主力製品の買い替え促進を強化してまいりました。海外では、中国・アジアや米国において営業活動を強化してまいりました。また、国内外において、二次電池の信頼性や安全性を評価する装置の販売拡大に努めてまいりました。

連結業績

	前第2四半期累計 [第60期] (百万円)	当第2四半期累計 [第61期] (百万円)	増減率(%)
受 注 高	16,137	15,551	△3.6
売 上 高	14,290	14,039	△1.8
営 業 利 益	850	680	△20.0
経 常 利 益	876	811	△7.4
四半期純利益	618	503	△18.5

こうした結果、国内市場の売上高は前年同期並みとなりましたが、海外市場の売上高は好調であった前年同期と比較し微減となりました。

当期間の業績につきましては、前年同期比で受注高は3.6%減少し15,551百万円となり、売上高は1.8%減少し14,039百万円となりました。

利益面につきましては、売上高の減少などにより営業利益は20.0%減少し680百万円、四半期純利益は18.5%減少し503百万円となりました。

株主のみなさまへの利益還元

当社は、株主のみなさまへの利益還元を経営の重要課題の一つと認識しております。

中間配当につきましては、1株当たり7円とさせていただきます。株主のみなさまにおかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

お客さまのご要望にお応えするために — 新しい製品・サービスのご紹介 —

当社は、お客さまのご要望にお応えするために、常に新製品の開発やサービスの充実に努めています。

新製品

お客さまの試験のしやすさを追求 「小型環境試験器」の発売

11月に、お客さまの環境試験のしやすさをより一層追求した新しい小型環境試験器を発売しました。

小型環境試験器は、コンパクトさと高性能を両立した主力製品の一つです。

新しい小型環境試験器では、天面へのオプション設置を可能にするとともに、架台のラインアップ拡充により、自由な組み合わせで装置や周辺機器を効率的に配置できるようになりました。また、計測器との連動機能を装備するなど、試験の準備から実施、測定・解析に至るまで、お客さまの用途に応じたシステムアップが行いやすくなりました。

また、パソコンから遠隔監視・操作が可能になるなど、ネットワークを活用した新しい機能により、お客さまの環境試験の効率化を目指しています。



小型環境試験器

業界初

業界初となる新サービス 「エスベックオンラインサポート」の開始

11月に、業界初となる新サービス「エスベックオンラインサポート」を開始しました。

当社装置に異常が発生した場合、「お客さまから当社にサービスコール」をいただくのではなく、「当社からお客さまにサービスコール」をするという逆転の発想から生まれた新サービスです。ネットワークを介して装置異常を当社が検知し、当社からお客さまにご連絡することで、装置の早期復旧を可能にします。また、装置よりお客さまへ定期的に報告メールを送信することにより、試験状況を装置から離れた場所でも確認できるようになりました。

当社ならではのサービスで、お客さまに安心して当社製品をお使いいただけるようサポート面の強化にも注力してまいります。



お客さま

電話またはE-mail



当社オンラインサポートセンターにて装置の復旧をサポート

世界初

自社開発した世界初の最新設備を導入 「エナジーデバイス環境試験所」の開設

11月に、エナジーデバイス(太陽電池、二次電池、パワー半導体)の信頼性試験・安全性試験に特化した「エナジーデバイス環境試験所」を宇都宮試験所内に新設しました。自社開発した世界初の最新設備を導入し、先端ニーズに対応いたします。

エコカーの普及に伴い、二次電池やパワー半導体の分野では環境試験需要が拡大しています。特に、車載用の二次電池は高い安全性と安定した性能が求められるため、安全性試験のニーズが高まっています。これらの要望に対応するため、安全設備を有した建屋を新設し、最新の設備を導入しました。新たな試験ノウハウを身に付け、受託試験サービスの付加価値向上や新製品開発につなげてまいります。



宇都宮試験所内に新設した
「エナジーデバイス環境試験所」

いのちを守る森の防潮堤づくり 「千年希望の丘」植樹祭に参加

震災による津波で甚大な被害を受けた宮城県岩沼市で、6月9日に「千年希望の丘」植樹祭が開催されました。約4,500名のボランティアにより、約30,000本の植樹が行われ、当社の社員も参加しました。

植樹祭は、「いのちを守る森の防潮堤づくり」を提唱された植物生物学者の宮脇昭先生(横浜国立大学名誉教授)の指導のもと行われ、当社子会社のエスベックミックがサポートしました。「千年希望の丘」は、コンクリート片や倒木などの災害廃棄物を用いて造った丘に、この土地本来の木を植えた森の防潮堤です。津波の力を弱め、災害発生時には避難場所として、また、被災者の想いや教訓を後世に伝えていく役割を担います。



「千年希望の丘」植樹祭(宮城県岩沼市)

株主アンケート結果のご報告

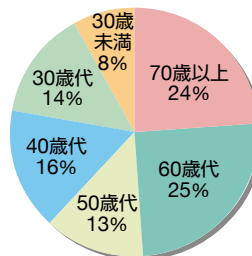
第60期株主通信のアンケートでは多くの株主さまからご回答をいただきました。

ご協力いただき、誠にありがとうございました。
みなさまからの貴重なご意見を真摯に受け止め、今後の経営やIR活動に反映させていきたいと考えています。

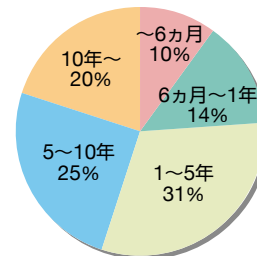
ここに、ご意見の一部をご紹介します。

ご回答者数 1,621名（男性：76% 女性：24%）

世代別



当社株式保有期間



株主さまからの声

植物工場事業に期待しています。

天候に左右されることなく、無農薬で植物を栽培する植物工場は、塩害や放射能汚染に悩む被災地の復興に向けた取り組みの一つとして注目されています。また、乾燥地や寒冷地など農業に適さない海外からのニーズが高まっています。こうした需要に的確にお応えするため、エスベックグループはこれからも植物工場事業を育成してまいります。

株主通信を読みやすくしてほしい。

今回の株主通信では、財務諸表ページにおいて、新たなグラフの掲載やレイアウトの見直しを行うなど、見やすさの改善を図りました。
今後も、株主さまにとってより有益なツールとなるよう取り組んでまいります。

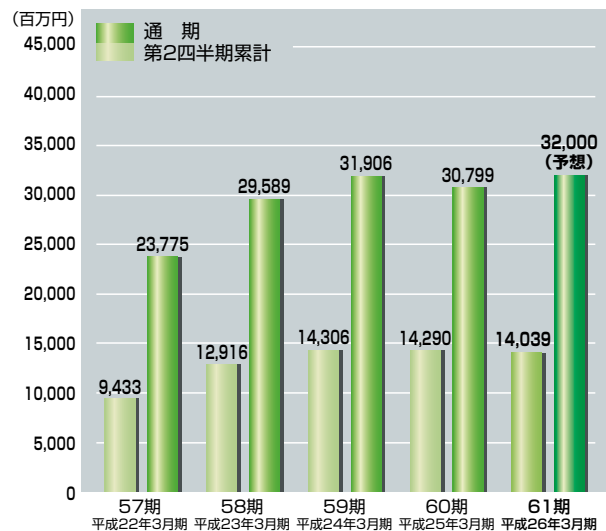
中国のリスクにはどのように対応していますか。

当社は、今年5月に広州に新会社「愛斯佩克試験儀器(広東)有限公司」を設立しました。この新会社では中国市場のニーズに合わせた製品を新たに開発し、投入してまいります。現在、工場を建設していますが、賃借することで初期投資費用を抑える一方、最新の生産設備・生産技術の導入により、熟練技能者に頼ることなく、高い生産性と低コストを実現することを目指しています。

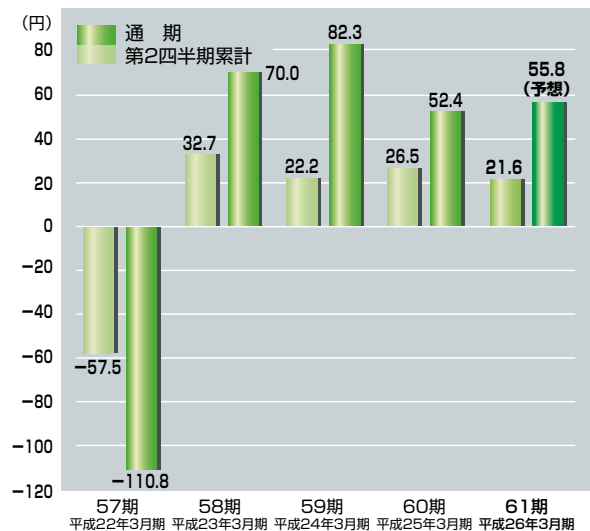
また、香港にある100%子会社「エスベックチャイナ」の統括のもと、中国の各関係会社の経営戦略の整合を図るとともに、コーポレートガバナンスと収益管理を強化し、さまざまなリスクにスピーディに対処できる体制づくりを進めてまいります。

連 結 業 績 の 推 移

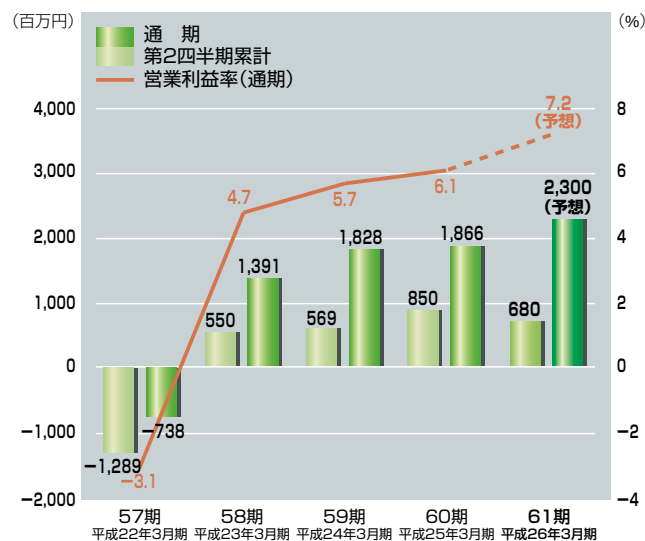
売上高



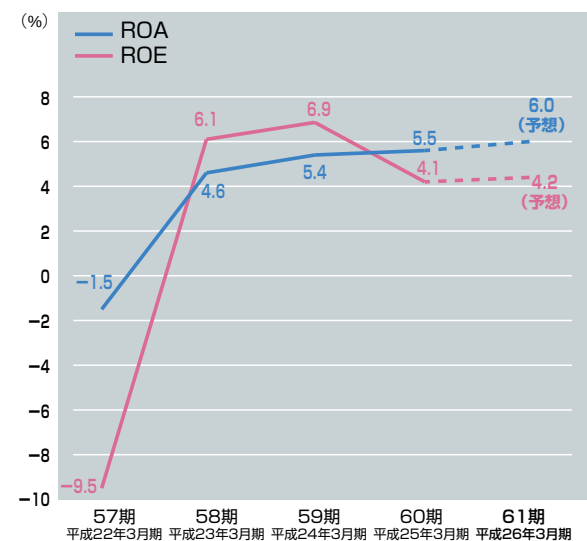
1株あたり当期純利益



営業利益／営業利益率



総資産経常利益率(ROA) 自己資本利益率(ROE)



装置事業

■ 事業内容

温度や湿度、その他環境因子が電子部品などを与える影響を試験する環境試験器を提供しています。また、電池を主としたグリーンテクノロジー市場向けのエネルギーデバイス装置や、半導体検査工程におけるバーンイン装置、半導体などの電気的特性を評価する計測システム、液晶などのFPDの生産ラインにおける熱処理装置・検査装置などを提供しています。

■ 業績の状況

環境試験器とエネルギーデバイス装置が減少

環境試験器では、国内市場においては本格的な投資回復が見られず、汎用性の高い標準製品の売上高が前年同期比で減少しました。恒温恒湿室ビルドインチャンバーでは、自動車市場を中心に受注獲得に努め、前年同期比で受注高・売上高ともに増加しました。海外市場においては、欧米では前

年同期比で売上高が増加しましたが、中国・アジアの売上高は減少しました。環境試験器全体では、受注高・売上高ともに前期比で減少しました。エネルギーデバイス装置では、車載用二次電池の分野を中心に国内や中国など海外市場の開拓を進め、引合いは増加しましたが受注獲得には至らず、受注高・売上高ともに前年同期比で減少しました。半導体関連装置では、半導体メーカーの投資が好調に推移し、前年同期比で受注高・売上高ともに増加しました。

FPD関連装置では、海外メーカーよりクリーンオープンを受注し、前年同期比で受注高・売上高ともに増加しました。

全体では、前年同期比で受注高は、2.3%減少し12,682百万円、売上高は0.9%減少し11,320百万円となりました。営業利益については、売上高の減少などにより前年同期比で10.6%減少し、575百万円となりました。

	前第2四半期累計 【第60期】 (百万円)	当第2四半期累計 【第61期】 (百万円)	増減率 (%)
受 注 高	12,975	12,682	△2.3
売 上 高	11,419	11,320	△0.9
営業利益	642	575	△10.6

サービス事業

■ 事業内容

製品のアフターサービスや改造・周辺工事などのエンジニアリング、試験を代行する受託試験、製品レンタルなどのサービスを提供しています。

■ 業績の状況

エンジニアリングとレンタルが低迷し減収

アフターサービス・エンジニアリングでは、顧客の経費削減などにより装置の移設や改造が減少し、前年同期比で受注高・売上高ともに減少しました。受託試験・レンタルでは、主力のテストコンサルティングにおいて自動車市場が好調に推移しましたが、レンタルが低迷し、前年同期比で受注高・売上高ともに減少しました。

全体では、前年同期比で受注高は5.0%減少し2,493百万円、売上高は5.7%減少し2,306百万円となりました。営業利益は、売上高の減少などにより37.1%減少し、177百万円となりました。

	前第2四半期累計 【第60期】 (百万円)	当第2四半期累計 【第61期】 (百万円)	増減率 (%)
受 注 高	2,625	2,493	△5.0
売 上 高	2,445	2,306	△5.7
営業利益	282	177	△37.1

その他事業

■ 事業内容

森づくりや水辺づくり、都市緑化などの環境エンジニアリング事業や、野菜育成装置などを提供する植物工場事業を行っています。

■ 業績の状況

森づくりが堅調に推移し微増

環境エンジニアリング事業では、森づくりにおいて前年同期比で受注高は減少したものの、売上高は増加しました。植物工場事業では、前年同期並みの売上高となりました。

その他事業全体では、前年同期比で受注高は24.0%減少し、464百万円となったものの、売上高は1.1%増加し496百万円となりました。利益面につきましては、72百万円の営業損失となりました。

	前第2四半期累計 【第60期】 (百万円)	当第2四半期累計 【第61期】 (百万円)	増減率 (%)
受 注 高	611	464	△24.0
売 上 高	491	496	1.1
営業損失	△75	△72	—

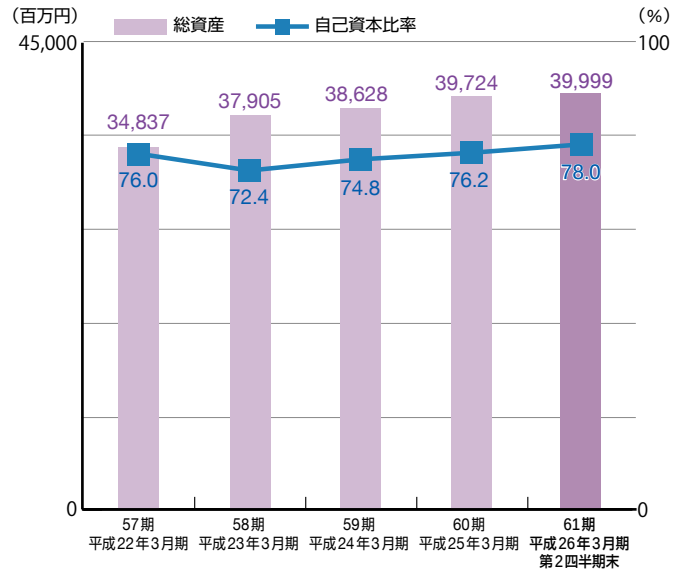
要 約 財 務 諸 表 (連 結)

四半期連結貸借対照表

(百万円)

科 目	当第2四半期末 平成25年9月30日	前第2四半期末 平成24年9月30日	前期末 平成25年3月31日
資産の部			
流動資産	28,288	26,589	28,414
固定資産	11,711	11,277	11,309
有形固定資産	8,647	8,379	8,530
無形固定資産	197	288	217
投資その他の資産	2,866	2,609	2,561
① 資産合計	39,999	37,867	39,724
負債の部			
流動負債	6,928	7,077	7,692
固定負債	1,625	1,471	1,576
② 負債合計	8,554	8,548	9,269
純資産の部			
株主資本	31,644	30,893	31,327
資本金	6,895	6,895	6,895
資本剰余金	7,172	7,172	7,172
利益剰余金	17,936	17,184	17,619
自己株式	△ 360	△ 360	△ 360
その他の包括利益累計額	△ 445	△ 1,775	△ 1,062
少数株主持分	246	201	190
③ 純資産合計	31,445	29,318	30,455
負債純資産合計	39,999	37,867	39,724

総資産／自己資本比率の推移



① 総資産

39,999百万円で、前期末と比べ275百万円の増加となりました。その主な要因は、現金及び預金の増加208百万円、受取手形及び売掛金の減少1,377百万円、有価証券の増加500百万円、仕掛品等のたな卸資産の増加611百万円、投資その他の資産の増加304百万円などによるものです。

② 負債

8,554百万円で前期末と比べ715百万円の減少となりました。その主な要因は、支払手形及び買掛金の減少747百万円などによるものです。

③ 純資産

31,445百万円で前期末と比べ990百万円の増加となりました。その主な要因は、為替換算調整勘定の増加423百万円などによるものです。

四半期連結損益計算書

(百万円)

科 目	当第2四半累計 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで	前第2四半累計 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	前期 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで
売上高	14,039	14,290	30,799
売上原価	9,250	9,364	20,518
売上総利益	4,788	4,925	10,281
販売費及び一般管理費	4,108	4,075	8,414
④ 営業利益	680	850	1,866
営業外収益	138	112	328
営業外費用	8	86	33
⑤ 経常利益	811	876	2,162
特別利益	2	1	4
特別損失	2	23	72
税金等調整前四半期(当期)純利益	811	854	2,094
法人税、住民税及び事業税	282	197	796
少数株主利益	25	38	78
四半期(当期)純利益	503	618	1,219

④ 売上高

自動車関連メーカーでは積極的な投資が継続しましたが、その他のメーカーでは投資に慎重な姿勢が根強く、前年同期比で1.8%減少し、14,039百万円となりました。

⑤ 営業利益

売上高の減少などにより、前年同期比で20.0%減少し、680百万円となりました。

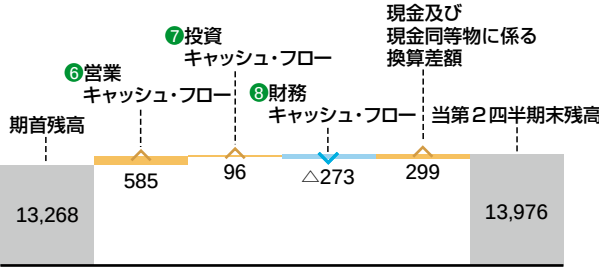
四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科 目	当第2四半累計 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで	前第2四半累計 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	前期 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで
⑥ 営業活動によるキャッシュ・フロー	585	1,958	3,765
⑦ 投資活動によるキャッシュ・フロー	96	20	177
⑧ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△273	△365	△542
現金及び現金同等物に係る換算差額	299	17	238
現金及び現金同等物の増減額	708	1,631	3,638
現金及び現金同等物の期首残高	13,268	9,630	9,630
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	13,976	11,261	13,268

キャッシュ・フローの推移

(百万円)



⑥ 営業活動によるキャッシュ・フロー

585百万円の資金の増加となりました。その主な要因は、売上債権の減少1,592百万円、仕入債務の減少887百万円などによるものです。

⑦ 投資活動によるキャッシュ・フロー

96百万円の資金の増加となりました。その主な要因は、信託受益権の減少185百万円、有形及び無形固定資産の取得による支出97百万円などによるものです。

⑧ 財務活動によるキャッシュ・フロー

273百万円の資金の減少となりました。その主な要因は、配当金の支払額184百万円などによるものです。

会 社 概 要 ・ 株 式 の 状 況

会社概要（平成25年9月30日現在）

社 名	エスベック株式会社
本 社	〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6
創 業	昭和22年(1947年)7月25日
設 立	昭和29年(1954年)1月13日
資 本 金	6,895百万円
従業員数	1,329名(連結) 839名(単体)

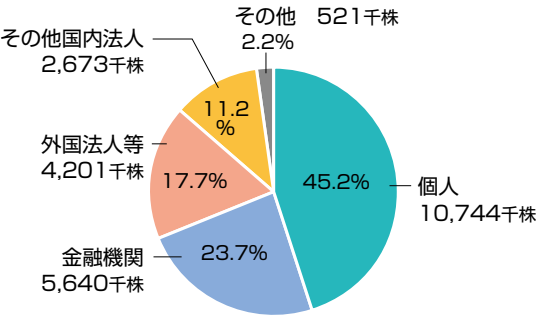
役員（平成25年9月30日現在）

代表取締役社長	石 田 雅 昭
常 務 取 締 役	島 田 種 雄
常 務 取 締 役	石 井 邦 和
取 締 役	桶 谷 馨
取 締 役	村 上 精 一
取 締 役	大 島 敬 二
社 外 取 締 役	志 関 誠 男
常 勤 監 査 役	村 上 充
監 査 役	松 南 雅 己
社 外 監 査 役	村 瀬 一 郎
社 外 監 査 役	山 本 哲 男

株式の状況（平成25年9月30日現在）

発行済株式総数	23,259,795株 (自己株式521,599株を除く)
株主数	6,278名

所有者別株式数分布状況



大株主

株 主 名	持株数 千株	持株比率 %
エスベック取引先持株会	1,874	7.88
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	887	3.73
エスベック従業員持株会	808	3.39
日本生命保険相互会社	790	3.32
日本トラストサービス信託銀行株式会社(信託口)	580	2.44
BBH BOSTON FOR NOMURA JAPAN SMALLER CAPITALIZATION FUND 620065	552	2.32
エスベック株式会社	521	2.19
株式会社みずほ銀行	513	2.15
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	499	2.09
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505041	479	2.01

株主メモ

決 算 期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
中間配当制度	有
基 準 日	3月31日および取締役会決議によって あらかじめ公告して臨時に定めた日
株式上場取引所	東京証券取引所(証券コード:6859)
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先	0120-288-324(通話料無料)
お 取 扱 店	みずほ証券株式会社 (本店および全国各支店、フナネットブース[株式会社みずほ銀行内の店舗]) みずほ信託銀行株式会社(本店および全国各支店)
未払配当金のお支払い	みずほ信託銀行株式会社(本店および全国各支店) 株式会社みずほ銀行(本店および全国各支店) (みずほ証券株式会社では取次のみとなります)
公 告 方 法	電子公告 電子公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.espec.co.jp/corporate/ir/koukoku/ ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載

お問合せ先

エスベック株式会社 総務人事部 総務グループ
Tel:06-6358-8820 e-mail:ir-div@espec.jp

ホームページのご案内

当社ホームページでは、事業内容や業績・財務データ、株式情報、製品情報などさまざまな情報をご覧いただけます。是非ご利用ください。

<http://www.espec.co.jp>



証券コード: 6859

エスペック株式会社

